

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	オープンビルディング小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (構法計画運営委員会)	主 査 名：南 一誠 就任年月：20 12 年 4 月
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	建築分野における世界的な課題として、膨大な既存建物のストックを、環境負荷の少ない手法で長期に渡って効果的に改修・転用する技術体系を確立することが求められている。本小委員会では、建築生産の全体の枠組みの中で、国際的に確立されたオープンビルディングの計画手法が担うべき役割を明確にすることを設置目的とする。2012年度の主な活動： ①長期利用が可能な集合住宅の計画技術（新設、既存の両方を対象） ②工業化住宅のストック活用手法（法制面、技術面の両方を検討） ③住宅におけるカスタマイゼーション手法の体系化（新築、改修とも）	
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：有り（1名） 主査 南 一誠（芝浦工業大学） 幹事 江口 亨（横浜国立大学）、小畑 晴治（開発構想研究所）、近角 真一（集工舎） 委員 安達 好和、忍 裕司、門脇 耕三、澤田 誠二、高木 淳一郎、藤本 秀一 宮坂 公啓、村上 心、森田 芳朗、安枝 英俊	
設置 WG (WG 名：目的)	CIBW104 対応WG（主査：村上心）：CIB の W104 は、オープンビルディングに関する国際会議を毎年開催しており、本小委員会委員を含む日本人研究者が参加してきた。本 WG では、国際会議開催に関連する協力などの対応を行う。	
2012 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s13/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物・講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 構法計画運営委員会傘下 3 小委員会合同学位論文発表会（5 月 22 日） 2. 澤田誠二委員：「工業化、メタボリズム、フレキシビリティからオープンビルディングへ」－澤田誠二の構法計画研究の軌跡－（6 月 13 日） 3. 真鍋恒博先生：「手法の体系化」と「構法の変遷史」研究－構法研究のこれまでと今後－（7 月 13 日） 4. 西郷徹也氏：サステナブル社会における地域住宅産業の事業形態に関する研究（10 月 17 日） 5. 住宅用インフィルの開発とその市場化（11 月 17 日）参加者数 180 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. Cultivating Built Environment — Sustainable Living・Industry・Culture (N. J. ハブラーケン) を澤田誠二委員が訳し、「都市環境を耕すことー持続可能な生活・産業・文化」としてランドスケープデザインに発表。他。
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 長期優良住宅として認定を受けた集合住宅の事例分析（10 月 10 日現地調査） 2. 工業化住宅の増改築、模様替えの制度的課題の整理（8 月 27 日委員会） 3. CIBW104（11 月 6～8 日）、9 th ISIAA2012（10 月 22～25 日）にて論文発表。
委員会活動の問題点・課題	1. 東京、名古屋、関西圏に委員が分散しており、委員会開催回数が不足しがち。 2. 国際関係の変化により、当初予定していた国際会議への参加人数が不足。 3. 国際学会誌 Open House International 編集委員の活動実質化、支援。